

キャベツ、ブロッコリー、リーフレタスの播種期別セル成型苗育苗培土

〔要約〕 キャベツ、ブロッコリーのセル成型苗の育苗培土は、5月から7月にかけては市販の培土（火成赤色土、のこくずくん炭、ピートモス、ゼオライトが主原料、肥料を含む）が適する。一方、リーフレタスの場合は、5月には市販培土と無肥料の資材（ピートモス、パーライト、バーミキュライトが混合されたもの）を2：1に混合した培土が適し、7月には1：1に混合した培土が適する。

園芸研究所・野菜花き部・野菜栽培研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園芸	専門	栽培	対象	葉菜類	分類	指導

〔背景・ねらい〕

野菜生産においては、育苗の共同化や種苗センターの利用による苗の大量生産が進みつつあるが、市販培土やトレイの種類によっては肥料切れ、苗の徒長等が問題となっている。そこで、主要品目であるキャベツ、ブロッコリー、リーフレタスについて品目毎、播種期毎に適する育苗培土を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- ①キャベツは、5月及び7月播種では市販の園芸培土（窒素成分200mg/l）を用いた場合に地上部の生育及び根鉢の形成が優れる（表1）。
- ②ブロッコリーは5月及び7月播種では園芸培土を用いた場合に地上部の生育及び根鉢の形成が優れる（表2）。
- ③リーフレタスは、5月播種では園芸培土に無肥料資材Aを2：1で混合した培土（以下園A2：1培土、窒素成分133mg/l）を用いた場合に地上部の生育や根鉢の形成が優れる。7月播種では園A1：1培土（窒素成分100mg/l）を用いた場合に徒長が抑制され、根鉢の形成も良好である（表3）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①健全な苗を大量に安定生産するための育苗用培土の選定に利用できる。
- ②パルプモールド製トレイを用いた育苗では育苗前半から追肥を行う。
- ③プラスチック製、ポリプロピレン製、発泡スチロール製トレイを用いた育苗では、追肥を行うと回数が多いほど草丈が伸長するが、根鉢の形成はやや劣るので適度な回数行う。

[具体的データ]

表1 育苗培土の種類と苗質(キャベツ)(平成4年、5年)

育苗培土の種類	5月播				総合	7月播				総合
	葉数	10株重	根鉢	評価		草丈	葉数	葉色	根鉢	
	枚	g			cm	枚				
園芸培土	3.4	9.1	5.0	◎	14.3	2.0	32.9	5.0	◎	
園A2:1	3.0	7.9	4.0	○	13.0	2.0	32.3	5.0	○	
園A1:1	2.9	6.6	4.0	○	11.8	2.0	29.7	4.9	○	

注) ① 5月播き:平成4年5月18日播種 6月8日調査

7月播き:平成5年7月26日播種 8月18日調査

②トレイ:セル数200角

③葉数:5月播き=完全展開葉を1枚とし、不完全展開葉は小数点以下の数値で表示
7月播き=完全展開葉を1枚とし、不完全展開葉は含めない

④葉色:ミノルタ葉緑素計SPAD-501で測定

⑤根鉢の形成程度:1=崩れる、5=崩れない、の5段階

⑥N-P₂O₅-K₂O:園芸培土=200-700-100, 園A2:1=133-467-67, 園A1:1=100-350-50
mg/ℓ (N:アムモニア態100%, P₂O₅:水溶性85%, K₂O:水溶性100%)

⑦培土水分:園芸培土=約40%

⑧A:ピートモス、パーライト、バーミキュライトを容積比で3:1:1に混合した
素材(無肥料)

⑨総合評価:根鉢、草丈、株重、葉色を基準に評価 ◎=最も適する、○=適する、△
=やや適する、×=適しない

(以下、表2、3も同じ)

表2 育苗培土の種類と苗質(ブロッコリー)(平成4年、5年)

育苗培土の種類	5月播				総合	7月播				総合
	葉数	10株重	根鉢	評価		草丈	葉数	葉色	根鉢	
	枚	g			cm	枚				
園芸培土	2.1	7.1	5.0	◎	14.3	1.5	37.8	5.0	◎	
園A2:1	2.0	5.5	4.0	○	13.1	1.3	34.7	5.0	○	
園A1:1	1.9	4.7	2.0	△	10.3	1.0	34.3	5.0	△	

表3 育苗培土の種類と苗質(リーフレタス)(平成4年、5年)

育苗培土の種類	5月播				総合	7月播				総合
	葉数	10株重	根鉢	評価		草丈	葉数	根鉢	評価	
	枚	g			cm	枚				
園芸培土	3.4	5.0	2.0	×	10.9	3.4	1.7	×		
園A2:1	4.0	9.6	5.0	○	14.1	3.3	4.7	△		
園A1:1	3.6	6.7	5.0	○	11.9	3.3	4.9	○		

[その他]

研究課題名:水田野菜における作付体系の改善

予算区分:国庫(地域水田)

研究期間:平成5年度(平成3~5年)

研究担当者:月時和隆、山本幸彦、渡辺幸恵、豆塚茂実

発表論文等:平成3~5年度園芸研究所野菜花き部野菜栽培研究室試験成績書